

地域とともにある学校

鶴居中学校区（鶴居小学校・下幌呂小学校・鶴居中学校）



コミュニティ・スクールだより

双方向、熟議、連携・協働 平成30年11月29日（木）No. 6

コミスク全国 in 三笠大会報告①

10月12日（金）に三笠市で行われた全国コミスク研究大会（三笠）に学校運営協議会から4名が参加してきました。午前中は分科会（3分科会に参加）、午後からパネルディスカッションが行われました。今号と次号で参加報告を行います。今号では、パネルディスカッションの報告です。

パネルディスカッションより

—テーマ：地域の未来を創る子どもを育むコミュニティ・スクール—

パネルディスカッションには、パネリストとして校長、教育委員会アドバイザー、学校支援コーディネーター、学校運営協議会委員とそれぞれの立場の方の意見を聞くことができました。

「CSは、学校づくりであり、街づくり」

◆地域の人となる子どもたち。教職員と違い、評価をしない大人と多く接する機会を設ける。（学校支援と地域貢献）

⇒その中で、小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。大人も喜びを感じるようになる。（生きがい）

⇒子どものために自分のためになり、子どもの笑顔が増える

⇒子どもが地域のために何かしたいと思うようになる

*この循環が大切で、例えば、地域の清掃を行った時に子どもたちから「また、やりたい」との声が出てくる。

※地域の人子どもをほめるようになった

※地域の人子どもをよく見るようになった

◆地域の団体同志のつながり（大人同志のつながり→町づくり）
立場や世代を超えた交流、異業種のネットワーク、出会い
→地域課題の共有も

顔が見える関係（学校・地域・家庭）へ

キーワードは、しかけ、きっかけ、声かけ！

コミスクは何のためにやるのか？



子どもたち（の自立）のために、コミスクがある。私たち大人が、当事者意識をもって、みんなで育てていこうという意識の共有と役割の明確化が大切。

★CSは、自転車に例えるとわかりやすい

後輪は、実働する人達

ハンドルは校長

ペダルはコーディネーター

前輪は学校運営協議会

目的

パネリストの一人だった三笠山崎ワイナリーの山崎氏が、「札幌の街を歩いていてもつまらない。沢山人はいるけれども、ただすれ違っているだけで、言葉を交わすことがない。でも、三笠では行き交う人と会話が生まれる。」と述べていたのが印象的でした。

コミスクを考える中で、鶴居の街づくりにも思いをはせながら考えていくとやりがいも見えてくるのではないのでしょうか。